

震 災以前の平成6年(1994)、「地域の文化を未来に伝える方舟」として設立された美術館。「食」をキーワードに地域の歴史や民俗を紹介する「方舟日記」、同館ゆかりの作家の作品を中心に紹介する「収蔵美術作品展」のほか、津波災害と地域文化の関わりを震災資料とともに公開した常設展示があります。

震災直後から約2年間にわたり、同館学芸員が気仙沼市と南三陸町の被害を記録調査。そして公開に至った常設展示は、「東日本大震災をいかに表現するか、地域の未来のためにどう生かしていくか」というテーマで、学芸員が撮影した写真203点、収集した被災物1505点、歴史資料など137点を展示しています。「被災現場では、定元に散乱する日用品が何かを語りかけてくるように感じた」など、展示被災物には、学芸員が感じたことや考えたことなどが文章で添えられています。



空中へせり出すように造られた、ガラス張りの展望室。高台に位置しているため、天気がいい日は市街地とそれを取り囲む緑豊かな山並みを一望できる。館内にはほかに、レストランやミュージアムショップもある



2階の歴史・民俗資料常設展示「方舟日記」では、海と山に囲まれる三陸沿岸部の豊かな「食」をキーワードに、薄れゆく地域の民俗、習俗、歴史、生活文化を総合的に展示。イラストパネルでわかりやすく解説



現代アートを軸に紹介しながら、地域の生活文化を普及するための歴史民俗常設展示を行う、総合博物館のような美術館。気仙沼湾を見下ろす丘陵地帯の一角に位置し、屋上庭園からの眺めがすばらしい

考えてみよう

Q1 一般的な災害の記録は「どう壊れたのか」という視点で行われますが、同館では異なる視点で調査を進めました。それは、どういう視点だったのでしょうか?

A1 まず「何が壊れたのか」。その次に、「なぜそれは壊れなければならなかったのか」という視点で調査を行った。単なる震災被害の記録ではなく、これまで築き上げられてきた地域の最後の姿を、今後の地域再生のために記録しようとした。

●げせんぬまし
気仙沼市

気仙沼市の被害状況

最大震度	6弱
浸水面積	18km ²
最大浸水深	27.06m
全壊	8,483棟
半壊	2,571棟
一部損壊	4,761棟
死者	1,218人
行方不明者	214人
負傷者	

※被害状況のデータについては、注釈がないものはP.1下段に記載の資料に準拠
※空欄または「不明」としているものは準拠資料の通りに掲載

学芸員の地道な調査で得た震災資料を公開

リアス・アーク美術館

「東日本大震災の記録と津波の災害史」常設展示

●リアス・アークびゅうつかん「ひがしにほんだいにんさいのきろくとつなみのさいがいし」じょうせつてんじ

展示

交流拠点

車椅子OK

施設DATA

●リアス・アークびゅうつかん
「ひがしにほんだいにんさいのきろくとつなみのさいがいし」じょうせつてんじ

リアス・アーク美術館
「東日本大震災の記録と津波の災害史」常設展示

☎ 0226-24-1611 MAP P114D2

⑤ 気仙沼市赤岩牧沢138-5

⑥ 三陸沿岸道路気仙沼中央ICから車で10分

🕒 9時30分～17時(最終入館は16時30分)

🌞 月・火曜、祝日の翌日(土・日曜を除く)

🎫 700円、大学生・短大生・専門学生600円、高校生500円、小・中学生350円

📍 あり(大型バス:あり)

http://www.riasark.com

